

平成 24 年 度

事業計画書

自 平成 24 年 4 月 1 日

至 平成 25 年 3 月 31 日

公益財団法人 ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

目 次

計画の策定にあたって

事業の実施計画

【公益目的事業】

- 海洋性レクリエーションや自然体験活動等の各種事業により、次代を担う青少年の健全育成と幼児から高齢者の国民の心とからだの健康づくりを推進する事業

【1】青少年の健全育成に関する事業

1. 自然体験・環境教育活動
 - (1) B&G「体験クルーズ」
 - (2) B&G「海洋体験セミナー」「親子ふれあい体験セミナー」
 - (3) 親子ふれあいプログラム
 - (4) 水に親しむ活動
 - (5) 水の安全教育・海事知識の普及
 - (6) 学校教育等と連携した水辺での体験プログラムの普及
 - (7) 海を守る植樹教育
 - (8) B&Gクリーンフェスティバル
2. 大会・交流活動
 - (1) B&G全国スポーツ大会
 - (2) B&G「ドリームキャンプ」
 - (3) 交流支援
3. 助成・活動支援
 - (1) 海洋センター施設整備
 - (2) 海洋クラブ登録と器材配備
 - (3) 事業活動助成
 - (4) その他支援

【2】幼児から高齢者までの心身の健康づくりに関する事業

1. 幼児の心身の健康づくりを目指した運動プログラムの普及
 - (1) 幼児運動プログラム講習会
 - (2) 運動能力測定システムの運用
 - (3) 幼児運動プログラムモデル・導入センター講習会
 - (4) 広報活動
2. 中高年の生活習慣病予防を目指した運動プログラムの提供
 - (1) 運動プログラムの動画・ポスターの周知
3. 高齢者の健康づくりを目指した運動プログラムの普及
 - (1) 転倒・寝たきり予防プログラム講習会
 - (2) 転倒・寝たきり予防プログラムモデル・導入センター講習会
 - (3) 広報活動

【3】指導者の養成に関する事業

1. 指導者養成
 - (1) アドバンスト・インストラクター養成
 - (2) アクア・インストラクター養成
 - (3) インストラクター養成
 - (4) リーダーおよびジュニアリーダー養成委託
2. 指導者研修
 - (1) 指導員研修会
 - (2) レベルアップ研修会
 - (3) 帆船研修
 - (4) 指導者会の活動促進
3. B&G人材バンク
 - (1) 講師・指導者登録
 - (2) 講師・指導者派遣

【4】ネットワーク構築と調査研究等事業

1. ネットワーク構築
 - (1) 情報ネットワークに係る活動
 - (2) 人的ネットワークに係る活動
 - (3) 海洋性レクリエーション団体との協力事業構築のための調査
 - (4) 職員相互の派遣研修
2. 調査研究等の活動
 - (1) 先駆的な事業等に対する支援・協力
 - (2) 事業成果の分析・評価
 - (3) B&G財団中長期事業計画策定の調査研究
3. 広報活動
 - (1) マスメディアによる広報
 - (2) ウォーターセーフティー ニッポンと連携した広報
 - (3) 自治体・海洋センター職員「B&G特派員」の活用
 - (4) インターネットを活用した情報の発信
 - (5) 「B&G広報大賞」の選出と表彰
 - (6) 広報誌「アンドリーニュース」の発行
 - (7) オリジナルグッズの製作・販売

【収益事業】

- 土地賃貸事業

計画の策定にあたって

財団創立 30 周年を迎えた平成 15 年に少子高齢化をはじめとする、様々な社会情勢や時代への変化に対応するため、幼児から高齢者までの“スポーツ・健康・人づくり”を掲げ、ハードからソフトへ事業軸を大きく転換し 10 年目を迎える。

今日までに、各種のソフト事業は順調に推移し、全国の海洋センター・海洋クラブに普及、定着している。

平成 24 年度は公益財団法人移行の初年度となる。

公益目的事業として「海洋性レクリエーションや自然体験活動等の各種事業により、次代を担う青少年の健全育成と幼児から高齢者まで国民の心とからだの健康づくりを推進する事業」を行う。

従来の事業枠「海洋センター施設整備事業」をはじめ、「指導者養成事業」「スポーツと健康事業」「親子ふれあい事業」「海洋教育事業」「海洋センター・海洋クラブ支援事業」「ネットワーク推進事業」「他団体との連携協力事業」など 13 の事業枠から、

1. 青少年の健全育成に関する事業
2. 幼児から高齢者までの心身の健康づくりに関する事業
3. 指導者の養成に関する事業
4. ネットワーク構築と調査研究等事業

の 4 つの事業枠に取りまとめた。

また、収益事業として旧東京海洋センター跡地を利用した「土地賃貸事業」を行う。

社会から信頼される公益財団として、事業展開はもとより組織運営、会計財務についても一層の透明性を確保し、高い公益性を維持して行くとともに、海洋性レクリエーションの実践活動を通じた青少年の健全育成を主とした社会貢献をより一層推進していくこととする。

特に、ボートレースの貴重な財源である日本財団助成を活用し、運営にあたってはより一層の経費節減に努め、賃貸料収入、基金等を活用し健全な運営と事業の推進に努める。

事業の実施計画

【公益目的事業】

公益目的事業として、「海洋性レクリエーションや自然体験活動等の各種事業により、次代を担う青少年の健全育成と幼児から高齢者の国民の心とからだの健康づくりを推進する事業」を行う。

各事業の実施計画は次のとおりである。

【1】 青少年の健全育成に関する事業

1. 自然体験・環境教育活動

(1) B&G「体験クルーズ」

日本財団助成申請中

小笠原への体験航海を通して、全国から集まった青少年を対象に、航海ならではの集団生活から、連帯感・団結心をもって友情を育み、ルールやマナー、礼節などの社会性を学ばせると共に、海や船に対する関心と理解を深めさせる。

また、寄港地活動を通して、海を隔てた自然環境・文化の違いにふれ、「自然保護」や「地域環境」を考える機会を提供する。

ア. 時 期：平成25年3月25日（月）～30日（土）

イ. 寄港地：小笠原諸島父島

ウ. 対 象：小学校4年生～中学校3年生

エ. 人 数：500名

オ. 参加費：80,000円（東京 晴海埠頭 集合解散）

カ. 募集開始：平成24年11月1日

(2) B&G「海洋体験セミナー」「親子ふれあい体験セミナー」

日本財団助成申請中

沖縄での海洋性レクリエーションや自然体験活動を通して、各地域から集まった参加者を対象に、規律ある集団生活から、連帯感・団結心をもって友情や親子の絆を育み、ルールやマナー、礼節などの社会性を学ばせるとともに、海に対する関心と理解を深めさせる。

また、沖縄の特色ある文化や自然環境にふれ、「自然保護」や「地域環境」を考える機会を提供する。

B&G「海洋体験セミナー」

ア. 時 期：A行程 平成24年7月25日（水）～7月29日（日）

B行程 平成24年7月29日（日）～8月2日（木）

C行程 平成24年8月7日（火）～8月11日（土）

D行程 平成24年8月17日（金）～8月21日（火）

イ. 場 所：沖縄県本部町B&G海洋センター（マリニピアザオキナワ）

- ウ. 対 象：小学校 5 年生～中学校 3 年生
- エ. 人 数：320 名（80 名×4 回）
- オ. 発着地：A 行程：羽田空港・伊丹空港
 B 行程：新千歳空港・中部国際空港・福岡空港
 C 行程：旭川空港・仙台空港・鹿児島空港
 D 行程：羽田空港・伊丹空港・岡山空港
- カ. 参加費：58,000 円～77,000 円（発着空港により変動）
- B & G 「親子ふれあい体験セミナー」
- ア. 時 期：平成 24 年 8 月 2 日（木）～8 月 5 日（日）
- イ. 場 所：沖縄県伊江村
 沖縄県本部町 B & G 海洋センター（マリンピアザオキナワ）
- ウ. 対 象：小学校 3 年生から 6 年生までの児童とその保護者
- エ. 人 数：15 組 30 名（原則として親子 2 名×15 組）
- オ. 集合解散地：羽田空港または那覇空港
- カ. 参加費：98,000 円／親子 2 名 1 組（羽田空港集合解散）

（3）親子ふれあいプログラム 日本財団助成申請中

青少年への自然教育で実績のある小野田自然塾の協力のもと、そのキャンプノウハウ等を活用し、“親と子の絆”を通じた青少年問題への取り組みとして、日常生活では体験できない多彩なプログラムを用いた自然活動の機会を提供する。また、親子を対象としたプログラムの全国展開と併せてプログラム提供者、プログラム展開の担い手となる地域指導者の資質の向上を図るとともに、各地域オリジナルのキャンプノウハウの蓄積に努める。

自然体験を通じた“親子ふれあいプログラム”の提供と地域指導者の資質向上

- ア. 「野外体験活動 レベルアップ研修会」の開催
 - i) 時 期：平成 24 年 4 月下旬（1 泊 2 日）
 - ii) 場 所：東京（都内の野外活動施設他）
 - iii) 対 象：過去に野外体験指導者養成セミナーを受講した指導者及び新規指導員
 - iv) 人 数：20 名（1 ブロック 2 名）
- イ. 「親と子のふれあいキャンプ」の開催支援（活動費助成）
 - i) 時 期：平成 24 年 5 月～平成 25 年 2 月
 - ii) 場 所：全国 10 ブロック内各 1 ヲ所 計 10 ヲ所
 ※活動助成は 3 ヲ年につき、開催 3 ヲ年が経過した地域（20 ヲ所）は自主開催とする。

「親と子のふれあいキャンプ」の活動補助（運営スタッフの派遣）

ア．時 期：平成24年5月～平成25年2月

イ．場 所：全国10ブロック内各1カ所 計10カ所

（4）水に親しむ活動

安全教育の一環として、レスキューの要素を取り入れた競技やヨットの初心者を対象とした各種イベントを開催することで海洋センターの活性化とセーリングの普及を図る。

また、日本トライアスロン連合、日本ライフセービング協会との連携により、海洋センター及び周辺施設を活用し、水泳を含む複合スポーツ教室を開催する。

①B&Gチャレンジレスキュー

ア．時 期：平成24年7月

イ．場 所：海洋センタープールまたはセンター所在市町村プール

ウ．対 象：小学校低学年の部（1～3年生）・高学年の部（4～6年生）
指導者の部（B&G財団に登録の指導者会）

「プールでOPヨット体験会」の開催支援

ア．時 期：平成24年 通年

イ．場 所：海洋センター等 20カ所

ウ．対 象：（参加者）開催地近隣の小・中学生とその保護者
（指導者）近隣の道府県連協

エ．人 数：400名（20名×20カ所）

「アクセスディンギーフェスタ in 江の島」の開催

ア．時 期：平成24年6月30日（土）～7月1日（日）2日間

イ．場 所：神奈川県藤沢市 江の島ヨットハーバー

ウ．対 象：小学生から高齢者まで

エ．人 数：160名（80名×2日）

オ．連携団体：B&G江の島海洋クラブ・セイラビリティ江の島・藤沢市

④「ウォータースポーツプロジェクト」教室の開催

ア．時 期：平成24年5月～11月

イ．場 所：海洋センターおよび周辺施設 10カ所

ウ．対 象：小学校4年生～中学校3年生と保護者

エ．人 数：200名（10カ所×20名）

（5）水の安全教育・海事知識の普及 日本財団助成申請中

青少年期に不可欠な“自然体験活動”と、水の事故を防止する“水辺の安全教育”を推進する「水の事故ゼロ運動」を全国に展開するため、『教育活動事業』『体験活動事業』『啓発・普及活動事業』を柱として「水の事故ゼロ運動」を実施する。併せて津波・台風・集中豪雨などの「自然災害に対する安全教育」を含

めて、わが国の”水の事故ゼロ”を目指す。

また、ホームページ等を通じて、パートナー・サポーター等の全国での活動を発信することにより、更に同運動を拡大するための普及・啓発活動を行う。

教育活動

ア. 水辺の安全講習会の開催

- i) 実施回数：3回
- ii) 時期：平成24年5月～9月
- iii) 場所：静岡県、三重県
- iv) 対象：パートナー、サポーター、教育関係者等
- v) 定員：20名～200名
- vi) 参加費：通常講習 1,000円（保険料等）
教職員・児童対象は無料

イ. 海外先進地の安全教育等の活動調査

- i) 先進事例視察(訪問先：オランダ他)
 - a) 時期：平成24年9月～10月の間（1週間程度）
 - b) 訪問先：オランダほか
 - c) 調査者：B&G財団役職員及びWSN賛同者
- ii) 情報交換(訪問先：ニュージーランド)
 - a) 時期：平成24年12月
 - b) 訪問先：ニュージーランド（WSNZほか）
 - c) 調査者：B&G財団役職員及びWSN賛同者

ウ. 水の安全教育の推進

- i) ケーブルテレビでの「水辺の安全教育映像」放映の推進
 - a) 放映依頼：平成24年4月～平成25年3月
 - b) 依頼先：自治体または自治体からの委託先の事業者

エ. 教材等の配布・貸出

- i) 教材等の配布・貸出
 - a) 時期：通年
 - b) 対象：「水辺の安全教室」参加者およびパートナー等実施団体、臨海学校等実施小学校
 - c) 配布教材：水の安全対策「紙芝居」、水辺の安全手帳、安全マニュアル、水の事故事例DVD、横断幕、ポスターなど
 - d) 貸与器材：ライフジャケット、レスキューチューブ、スローバック、練習用AED、心肺蘇生練習機、レスキューボードなど
- ii) 「水辺の安全教育推進校」表示証の贈与
 - a) 表示内容：「水辺の安全教室」を実施した内容を示す文書
 - b) 実施予定数：120校
 - c) 表示証：A4サイズ・額縁入り

オ. 講師等の派遣及び斡旋

- i) 時期：通年
- ii) 派遣・斡旋対象：パートナー等の団体

②体験活動

ア. 小学校「水辺の安全教室」の実施および支援

- i) 時期：平成24年6月～9月
- ii) 場所：東京23区内の小学校プール 1,000人、最大20校
地方の小学校プール等 100校
- iii) 対象：児童および保護者
- iv) 内容：カヌー体験・水辺の安全学習（浮き身・紙芝居・ロープワーク等）

イ. お台場「水辺の安全教室」の実施

- i) 時期：平成24年7月上旬（1回）
- ii) 場所：お台場海浜公園
- iii) 対象：一般参加者（自由参加）
- iv) 内容：カヌー体験・救助実演・WSN賛同団体のプログラム

ウ. 都内水域を活用した「水辺の安全教室」の実施

- i) 時期：平成24年9月（1回）
- ii) 場所：東京23区内の水域
- iii) 対象：一般参加者 30名
- iv) 内容：カヌー体験・ヨット体験・水辺の安全学習

エ. 海上保安庁と連携した「水辺の安全教室」の実施

- i) 時期：平成24年4月～平成25年3月
- ii) 場所：B&G海洋センター所在市町村
- iii) 対象：学童
- iv) 内容：ライフジャケット着用体験・カヌー体験・水辺の安全学習等

③啓発・普及活動

ア. 「水の事故ゼロの日」「水の事故ゼロ運動強化期間」の設定

- i) 「水の事故ゼロの日」：平成24年7月1日
- ii) 「水の事故ゼロ運動強化期間」：平成24年7月1日～7月16日
- iii) 周知方法：WSNホームページ並びに幹事・パートナーのホームページ等

イ. 水の安全標語の募集と表彰

- i) 時期：平成24年10月～11月
- ii) 対象：全国の小学生
- iii) 表彰：最優秀賞 1点、優秀賞 3点

ウ. 「活動報告会」の開催

- i) 時期：平成25年3月

ii) 場 所：東京都港区

iii) 対 象：WSN幹事団体・パートナー・サポーター関係者、報道関係者、一般希望者ほか

エ. 「水の事故ゼロ運動」推進のための映像の制作

i) 製作時期：平成24年4月～7月

ii) 放映対象：市町村等が運営する各地のケーブルテレビなど

オ. 「水辺の安全教育」指導用映像の制作

i) 製作時期：平成24年4月

ii) 貸与対象：幹事団体、パートナー等

カ. 「水の事故ゼロ運動」普及プログラムの調査・研究

i) 製作時期：通年

ii) 対 象：“自然体験活動”および“水の安全教育”活動実施団体等

キ. 水の事故情報の収集と公開

i) 時 期：通年

ii) 公表方法：ホームページ等

ク. パートナー・サポーターの募集・登録説明会の開催

i) 時 期：通年

ii) 対 象：地方自治体・学校・海洋センター・海洋クラブ・海事等各種団体・企業・マスコミ・個人等

iii) 登録目標：パートナー 150件 (3カ年累計目標 1,000件)
サポーター 10,000件 (3カ年累計目標 30,000件)

ケ. ホームページの拡充

コ. 世界標準「水辺の安全標識」設置の提唱

i) 時 期： 通年

(6) 学校教育等と連携した水辺での体験プログラムの普及

日本財団助成申請中

学校教育と連携して開発された「水に賢い子どもを育む年間型活動プログラム（水プロ）」の全国的な普及・定着を図るため、都内の小学校において実施するとともに全国の模範、地域の核となる学校や海洋センターへの支援を行う。併せてプログラムの指導手法として有効なインタープリテーションについて、継続的に指導者を養成する。

「水プロ」の普及

ア. 時 期：導入校 通年（四半期に1回）年4回以上
普及校 年間1回以上

イ. 場 所：導入校 18カ所 普及校 47カ所

ウ. 対象者：海洋センター所在・近隣市町村の小学校
都内の「水辺の安全教室」実施校等

「水プロ」研修会の開催

ア. 時 期：平成 24 年 4 月～5 月

イ. 場 所：東京近郊

ウ. 対象者：導入校 18 校の教諭および海洋センター担当者
普及校教諭

「水プロ」普及のためのプログラム提供

ア. 時 期：通年

「水プロ」実施校の活動支援

ア. 時 期：通年

イ. 対 象：導入校 18 カ所 普及校 47 カ所

「水辺のインタープリテーション」テキストの配付

ア. 時 期：通年

B&G「水辺のインタープリテーション」研修会の実施

ア. 時 期：通年

イ. 対 象：沖縄県本部町 マリンピアザ・オキナワ

ウ. 対象者：指導員養成研修参加者

(7) 海を守る植樹教育

日本財団助成申請中

水や生命の循環の観点から、海洋性レクリエーション活動の場である海の環境を守る森の育成および海岸防災林の役割とその価値を学ぶため、体験型の環境学習として、育苗と植樹を全国に普及する。

①植樹リーダー研修会の開催

地域での育苗・植樹事業を推進するため研修会を実施し、指導者を養成するとともに人材の育成を図る。

ア. 時 期：平成 24 年 5 月（2 日間）

イ. 場 所：神奈川県平塚市

ウ. 対 象：海洋センターおよび海洋クラブ指導員等（20 名）

②植樹事業（育苗）の支援

育苗・植樹を実施する海洋センターおよび海洋クラブ等に対し、事業経費の補助等を行う。

ア. 時 期：通年

イ. 場 所：海洋センター等（20 カ所）

ウ. 対 象：海洋センターおよび海洋クラブ等

エ. 内 容：上限 10 万円の事業経費補助他

③植樹事業（植樹）の支援

植樹を実施する海洋センターおよび海洋クラブ等に対し、事業経費の補助等を行う。

- ア. 時 期：通年
- イ. 場 所：海洋センター等（4カ所）
- ウ. 対 象：海洋センターおよび海洋クラブ等
- エ. 内 容：上限50万円の事業経費補助他

④植樹広報用映像の制作

植樹の趣旨、重要性を解説した映像を制作し広報する。

- ア. 時 期：平成24年7月

(8) B&Gクリーンフェスティバル

年間を通して海洋センター・海洋クラブにおいて、海洋性レクリエーション活動および「水の事故ゼロ運動」の普及、環境保全の意識付けを目的とした「B&Gクリーンフェスティバル」の実施を推進する。

- ア. 時 期：通年
- イ. 対 象：地域海洋センター利用者・海洋クラブ員ほか一般
- ウ. 人 数：18,000名

2. 大会・交流活動

(1) B&G全国スポーツ大会

全国の海洋センター、海洋クラブを利用する小・中学生ならびに保護者を対象に、日頃の練習の成果を発揮する場として各種海洋性レクリエーションの全国大会を開催する。併せて、参加者相互の交流を深める場として交流会を開催する。

①「B&G全国ジュニア水泳競技大会」

- ア. 時 期：交流会：平成24年8月17日（金）
大 会：平成24年8月18日（土）
- イ. 場 所：交流会・大会：東京辰巳国際水泳場
- ウ. 対 象：海洋センター利用者・海洋クラブ員・「インターネット水泳記録会」成績最優秀者（小・中学生）
- エ. 人 数：450～500名

②「B&G杯全国少年少女カヌー大会」

- ア. 時 期：平成24年7月
- イ. 場 所：山梨県精進湖
- ウ. 対 象：海洋センター利用者・海洋クラブ員及び一般愛好者（小学生）
- エ. 人 数：250名（大会150名 試乗会100名）

③「B&G OP級ヨット大会」

- ア. B&G OP級ヨット大会（東日本大会）
 - i) 時 期：平成24年7月14日（土）～15日（日）（2日間）
 - ii) 場 所：海陽ヨットハーバー（愛知県蒲郡市）

iii) 対 象 : 海洋センター利用者・海洋クラブ員および日本OP協会加盟
の会員 100 名

イ. B&G OP級ヨット大会 (西日本大会)

i) 時 期 : 平成 24 年 7 月 15 日 (日) ~ 16 日 (祝) (2 日間)

ii) 場 所 : 北浜ヨットハーバー (大分県別府市)

iii) 対 象 : 海洋センター利用者・海洋クラブ員および日本OP協会加盟
の会員 100 名

④ 「全国ウォータースポーツ大会」

ア. 「全国ウォータースポーツ 北日本大会」

i) 時 期 : 平成 24 年 7 月 28 日 (土) ~ 29 日 (日)

ii) 場 所 : 石川県七尾市

iii) 対 象 : 小学生とその保護者

iv) 人 数 : 各 50 組 100 名

イ. 「全国ウォータースポーツ 南日本大会」

i) 時 期 : 平成 24 年 8 月 11 日 (土) ~ 12 日 (日)

ii) 場 所 : 鹿児島県天城町 (徳之島)・

iii) 対 象 : 小学生とその保護者

iv) 人 数 : 各 50 組 100 名

(2) B&G 「ドリームキャンプ」

「B&G 全国スポーツ大会」(ヨット、カヌー、水泳)の成績優秀者が所属するセンター・クラブ等に、著名な講師を派遣し、選手の競技力、指導者の指導力向上等を図る。

ア. 時 期 : 平成 24 年 9 月 ~ 12 月 (各全国大会終了後、各 2 日間)

イ. 場 所 : 全国大会成績優秀者が所属するセンター・クラブ 4 ヶ所

ウ. 対 象 : 「全国ジュニア水泳競技大会」で総合優勝した道府県内の海洋センター、クラブ等 1 ヶ所

: 「全国少年少女カヌー大会」普及艇 5・6 年生の部の成績優秀者所属の海洋センター、クラブ等 1 ヶ所

: 「B&G OP級ヨット大会」東西大会各 B クラス成績優秀者所属の海洋センター・クラブ等 2 ヶ所

エ. 人 数 : 80 名 (20 名 × 4 ヶ所)

(3) 交流支援

カヌーやヨットなどの海洋性レクリエーション活動を通じた日本と諸外国の青少年との交流を図り、相互理解と友好を深めるとともに、国際的視野・感覚を養い、次代を担うにふさわしい青少年を育成する。

海外海洋クラブとの交流事業（ニュージーランド、韓国との交流）

ア. 時 期：平成 24 年 7 月

イ. 場 所：大分県別府市

国際ジュニア親善ヨット大会による交流事業（韓国、中国との交流）

ア. 時 期：平成 24 年 8 月

イ. 場 所：中国 上海市

3. 助成・活動支援

(1) 海洋センター施設整備 日本財団助成申請中

海洋センター建設後 10 年を経過し「海洋センター評価」が原則 B 評価以上で、施設の機能保全及び機能向上（バリアフリー化など）を目的とする修繕と、自然災害（地震、台風等）により被害を受けた海洋センター施設の原状復帰修繕等に対し、助成金の交付を行う。併せてボートレースの収益金が広く有効に活用されていることを、当該市町村をはじめ地域住民に周知するため、助成決定書授与式の実施、リニューアルオープン式典への出席をする。

①通常修繕に対する助成金の交付

ア. 時 期（平成 25 年度募集）：通年

イ. 場 所：43 センター 45 施設 体育館 11 施設
プール 30 施設
艇庫 4 施設

ウ. 申請時期：平成 24 年 8 月 1 日～8 月 15 日

②災害復旧修繕に対する調査および助成金の交付

ア. 時 期：通年

イ. 対 象：自然災害により被害を受けた海洋センター

ウ. 申請時期：通年

③決定書授与式の開催

ア. 時 期：平成 24 年 4 月～9 月

イ. 対 象：助成金額が 1,000 万円以上の自治体 27 ヲ所

④リニューアルオープン式典の出席

ア. 時 期：通年

イ. 対 象：海洋センター 概ね 5 ヲ所

⑤海洋センターの現状調査

ア. 時 期：通年

イ. 対 象：海洋センター 概ね 15 ヲ所

海洋センターの評価

ア. 時 期：4 月

イ. 対 象：廃止した海洋センターを除く全海洋センター

⑦優良海洋センターの表彰（特A・A）

ア．時 期：平成 25 年 1 月中旬

イ．場 所：東京都内（B&G 全国サミットにて表彰）
海洋センター存続に係る協議

ア．対 象：海洋センター評価に基づき、D 評価等運営が低迷している海洋
センター

イ．時 期：平成 24 年 10 月～平成 25 年 3 月

ウ．場 所：東京都内

（2）海洋クラブ登録と器材配備 日本財団助成申請中

B & G プランの趣旨に賛同し、地域に根付いた海洋性レクリエーション活動を組織的・継続的に実施する団体を「B & G 海洋クラブ」として登録するとともに、海洋センター・海洋クラブに対して舟艇器材配備などの活動支援を行うことにより、海洋性レクリエーションおよび海事思想の普及振興を図る。

①舟艇器材の配備

ア．舟艇器材追加・再配備

i) 時 期：平成 24 年 6 月以降

ii) 対 象：「海洋センター評価」、「海洋クラブ評価」、活動状況など申請要件を満たす海洋センター・海洋クラブ

iii) 器 材：救助艇、ライフジャケット、カヌー、OP 級ヨット等

iv) 配備数：25 海洋センター・海洋クラブ

イ．海洋クラブ設立支援に係る舟艇器材の貸与

i) 時 期：平成 24 年 6 月以降

ii) 対 象：海洋クラブの設立を検討する、艇庫施設のない海洋センター 2 ヲ所

iii) 器 材：救助艇、ライフジャケット、カヌー、OP 級ヨット等、活動水面に適した舟艇器材

ウ．海洋クラブ登録に係る舟艇器材の新規配備

i) 時 期：平成 24 年 6 月～平成 25 年 3 月

ii) 対 象：新たに登録した海洋クラブ 3 ヲ所

iii) 器 材：救助艇、ライフジャケット、カヌー、OP ヨット等、活動水面に適した舟艇器材

②海洋クラブの登録及び活動促進

ア．海洋クラブの登録

i) 時 期：平成 24 年 4 月～平成 25 年 2 月

ii) 対 象：「B & G 海洋クラブ登録要領」の要件を満たし、B & G プランに賛同し、地域に根付いた海洋性レクリエーション活動を組織的・継続的に実施する団体。

iii) 登録数：3カ所

イ. 海洋センターへの海洋クラブ設立支援

i) 時期：通年

ii) 対象：海洋クラブ設立を検討する艇庫施設のない海洋センター
2カ所

③海洋クラブ評価の実施

ア. 時期：4月

イ. 対象：全海洋クラブ

④海洋クラブ表彰の実施

ア. 時期：平成24年10月～11月

イ. 場所：「教育長・責任者 海洋センター・海洋クラブ活性化会議」
で表彰

⑤海洋クラブの現況調査

ア. 時期：通年

イ. 対象：特色ある活動をしている海洋クラブ、現況把握が必要な海洋
クラブなど

(3) 事業活動助成

ブロック連絡協議会、道府県連絡協議会、海洋センター、海洋クラブ及び指導
者会が実施する事業に対し活動助成金を交付する。

①海洋センター等への活動助成金

ア. 時期：通年

イ. 助成数：概ね300事業

(4) その他支援

①マリンスポーツ技能認定

海洋センター利用者および海洋クラブ員に対して、意欲向上を図ることを
目的に、カヌー・ヨット・水泳の技術を認定する「技能認定」を実施し、認
定証を交付する。

ア. 時期：通年

イ. 場所：海洋センター・海洋クラブ

ウ. 対象：海洋センター利用者・海洋クラブ員

エ. 人数：延べ7,500名

②B&G財団会長賞

海洋センター・海洋クラブが開催する「B&G財団会長賞」大会および海
洋センターブロック連絡協議会、海洋センター道府県連絡協議会が開催する
「B&Gマリンスポーツ大会」等に、カップおよび賞状等を交付する。

ア. 時期：通年

イ. 場 所：海洋センター・海洋クラブ

ウ. 対 象：海洋センター・海洋クラブ及びブロック連絡協議会、道府県連絡協議会等

エ. 事業数：160 事業

③「日本オプティミストセーリング選手権大会」への協賛

「B&G OP級ヨット大会」上位者に出場枠のある本大会に協賛して、初出場選手の最上位者に新人賞「B&G杯」を贈呈する。

ア. 時 期：平成24年8月23日（木）～26日（日）

イ. 場 所：神奈川県葉山町

ウ. 対 象：大会初出場選手中 最上位の男女 各1名

エ. 主 催：日本セーリング連盟、日本OP協会

④B&G「体験クルーズ」への招待

海洋センターブロック連絡協議会が主催するスポーツ大会の成績優秀者をB&G「体験クルーズ」へ招待する。

ア. 人 数：60名

⑤B&G「親子ふれあい体験セミナー」への招待

平成23年度「全国ウォータースポーツ大会」南日本、北日本大会の成績優秀者をB&G「親子ふれあい体験セミナー」へ招待する。

ア. 人 数：親子2組（南北各1組）

【2】幼児から高齢者までの心身の健康づくりに関する事業

1. 幼児の心身の健康づくりを目指した運動プログラムの普及

(1) 幼児運動プログラム講習会

一日体験会と指導者研修会を併せて開催することにより、導入センターの普及を図り、全道府県での事業展開を目指す。

ア. 場 所：フロア・アクア 計4ヵ所

イ. 時 期：通年

ウ. 対 象：プログラム未導入の道府県連絡協議会

(2) 運動能力測定システムの運用

モデルセンター・導入センターにおいて、運動能力測定システムの運用を推進する。また、道府県連絡協議会単位での事業において、同測定システムの普及を図る。

ア. 時 期：通年

イ. 対 象：モデルセンターおよび導入センター、道府県連絡協議会

(3) 幼児運動プログラムモデル・導入センター講習会

「幼児運動プログラム」のモデル・導入センター指導者を対象に、新しい情報の提供・連携強化のため、一同に会しての講習会を実施する。(講義、実技、事例発表)

ア. 時 期：平成 25 年 2 月 (1 泊 2 日)

イ. 対 象：モデルセンターおよび導入センタースタッフ (定員 20 名)

(4) 広報活動

公式ホームページで公開しているモデルセンターの活動状況を更新する。

ア. 時 期：通年

イ. 対 象：モデルセンター 17 ヲ所

ウ. 場 所：東京

2. 中高年の生活習慣病予防を目指した運動プログラムの提供

(1) 運動プログラムの動画・ポスターの周知

プログラム内容(「基本編」「症状別編」)の紹介と説明の動画を、公式ホームページにて公開し、併せて利用状況を調査し、内容の追加・補充を図る。

ア. 時 期：通年

3. 高齢者の健康づくりを目指した運動プログラムの普及

(1) 転倒・寝たきり予防プログラム講習会

一日体験講座と指導者研修会を併せた形で講習会を開催することにより、導入センターの普及を図り、全道府県での事業展開を目指す。

ア. 場 所：3 ヲ所

イ. 時 期：通年

ウ. 対 象：プログラム未導入の道府県連絡協議会

(2) 転倒・寝たきり予防プログラムモデル・導入センター講習会

「転倒・寝たきり予防プログラム」のモデル・導入センター指導者を対象に、新しい情報の提供・連携強化のため、講習会を実施する。(講義、実技、事例発表等)

ア. 時 期：平成 25 年 3 月 (1 泊 2 日)

イ. 対 象：モデルセンタースタッフおよび導入センタースタッフ
(定員 40 名)

ウ. 場 所：東京

(3) 広報活動

公式ホームページで公開しているモデルセンターの活動状況を更新する。

ア. 時 期：通年

【3】指導者の養成に関する事業

1. 指導者養成

(1) アドバンスト・インストラクター養成 日本財団助成申請中

海洋センター等において、主として海洋性レクリエーションの実践指導と施設の管理・運営に携わり、青少年の健全育成と地域住民の健康づくり、およびこれらに必要なボランティアの育成を推進する指導員を養成する。

ア. 教 科：B & G財団概要、指導員概要、海洋性レクリエーション理論・実技・実習、水泳実技、安全管理、施設管理・運営、健康づくりプログラム、環境教育、心肺蘇生法等

イ. 期 間：平成24年6月1日（金）～7月5日（木）（35日間）

ウ. 人 数：30名

エ. 場 所：沖縄県本部町 B&G 海洋センター（マリンピアザオキナワ）

オ. 対 象：地方公共団体および財団が認める団体等から推薦された20歳以上の者

(2) アクア・インストラクター養成 日本財団助成申請中

海洋センター等において、主として水泳実践指導と施設の管理・運営に携わり、青少年の健全育成と地域住民の健康づくり、およびこれらに必要なボランティアの育成を推進する指導員を養成する。

ア. 教 科：B & G財団概要、指導員概要、水泳理論・実技・実習、海洋性レクリエーション理論・実技、安全管理、施設管理・運営、健康づくりプログラム、環境教育、心肺蘇生法

イ. 期 間：平成24年6月1日（金）～6月23日（土）（23日間）

ウ. 人 数：30名

エ. 場 所：沖縄県本部町 B&G 海洋センター（マリンピアザオキナワ）

オ. 対 象：地方公共団体および財団が認める団体等から推薦された20歳以上の者

(3) インストラクター養成

海洋センター・海洋クラブ等において、アドバンスト・インストラクターをサポートし、海洋性レクリエーションの基礎指導に携わる指導員を養成する。

ア. 教 科：B & G財団概要、指導員概要、海洋性レクリエーション理論・実技・実習等

イ. 期 間：平成24年6月1日（金）～6月10日（日）（10日間）

※アドバンスト・インストラクター養成研修に併せて実施

ウ. 定 員：6名

エ. 場 所：沖縄県本部町 B&G 海洋センター (マリビ^oアザ^oオナリ)

オ. 対 象：地方公共団体および財団が認める団体等から推薦された 20 歳以上の者並びに財団職員

(4) リーダーおよびジュニアリーダー養成委託

海洋センターブロック連絡協議会、海洋センター道府県連絡協議会および海洋センター等にリーダーおよびジュニアリーダー等の養成、ならびに資格を失効した指導員のための再登録研修実施を委託する。

ア. 教 科：海洋性レクリエーション、もしくは水泳の基礎的な理論および実技、安全管理等

イ. 期 間：通年

ウ. 場 所：海洋センター・海洋クラブ等

エ. 対 象：

i) リーダー：海洋性レクリエーション、または水泳の指導に携わる 20 歳以上の者

ii) ジュニアリーダー：海洋性レクリエーションの指導に携わる 13 歳以上 20 歳未満の者

※参加者 10 名以上の場合、要請により財団を派遣することがある。

(2 ヲ所以内)

2. 指導者研修

(1) 指導員研修会

海洋性レクリエーションに関する事業プログラムや安全管理等の最新の知識・情報等を提供する研修会を実施し、指導員の資質向上を図ると共に指導員のネットワークづくりを推進する。

ア. 時 期：平成 25 年 1 月下旬 (1 泊 2 日)

イ. 人 数：150 名

ウ. 場 所：東京都内

エ. 対象：指導員資格登録者 (資格失効者含む)

(2) レベルアップ研修会

B&G 海洋性レクリエーション指導員を対象に、技術や指導プログラムおよび最新情報の提供を目的とした研修を行い、指導力・実技力の向上を図る。また、ブロック等広域の指導員を対象とすることで、実施エリアでの艇庫活動の活性化を図る。

ア. 時 期：平成 24 年 7 月～平成 25 年 3 月まで

イ. 場 所：東北ブロック、中部ブロック、北九州ブロック (3 ヲ所)

ウ. 人 数：各 15 名

- エ. 対 象：主として平成 19～23 年度に養成研修を受講した B & G 海洋性レクリエーション指導員および B&G 指導員登録者、並びに海洋センター担当者

(3) 帆船研修

帆船での外洋体験と船内研修を行い、海・船への理解を深めるとともに海洋性レクリエーション指導員の知識・資質の向上を図り、海洋性レクリエーション活動の幅を広げることが目的とする。

- ア. 時 期：平成 24 年 10 月 23 日から 26 日（予定）
- イ. 場 所：神戸港から高松港（予定）
- ウ. 人 数：12 名
- エ. 対 象：指導員資格登録者（資格失効者含む）等

(4) 指導者会の活動促進

指導者会の登録及び活動状況の把握を行うとともに、次年度の活動方針等について意見交換し、活性化を図る。

①指導者会登録推進

- ア. 設置目標：100%
- イ. 内 容：登録推進
- ウ. 期 間：通年
- エ. 対 象：海洋センター・海洋クラブ

②ブロック責任者会議の開催

- ア. 内 容：指導者会の登録状況及び活動状況の把握、活動方針等の協議を行う
- イ. 期 間：平成 24 年 9 月、1 月（2 回以内）
- ウ. 対 象：正副会長及び各ブロックの責任者 13 名

③正副会長会議の開催

- ア. 内 容：全国指導者会の基本方針等の構築及び予算、事業計画、決算等の協議を行う。
- イ. 期 間：4 回以内
- ウ. 対 象：正副会長 3 名

④第 2 回 全国指導者会総会

- ア. 対 象：全国の指導者（AD/AQ/IN/LE 等）
- イ. 期 間：平成 25 年 1 月下旬
- ウ. 場 所：東京都内

周知活動

- ア. かわら版を年 3 回発行及びブログ等で情報発信
- イ. シンボルマークの活用

3. B&G人材バンク

(1) 講師・指導者登録

財団が認定する指導者等を「B&G人材バンク」に登録する。

ア. 時 期：平成24年4月以降

イ. 登録種目および対象：

- i) 海洋性レクリエーション（ヨット・カヌー・水泳等）
B&G海洋性レクリエーション指導員資格所有者で、指導実績があり
各種競技会等で優秀な成績を修めた者、および財団職員
- ii) 転倒・寝たきり予防プログラム
財団主催研修会を修了し、財団が認めた者（指導実績があり、指導
力がある者）および財団職員
- iii) 幼児フロアリズム運動プログラム
財団主催研修会を修了し、財団が認めた者（指導実績があり、指導
力がある者）および財団職員
- iv) 幼児アクアリズム運動プログラム
財団主催研修会を修了し、財団が認めた者（指導実績があり、指導
力がある者）および財団職員
- v) 野外体験活動プログラム
財団主催研修会を修了し、財団が認めた者（指導実績があり、指導
力がある者）および財団職員
- vi) 特別講師（武道含む）
各種スポーツ分野で活躍する著名人

(2) 講師・指導者派遣

海洋センター・クラブ等が実施する研修会・講習会等に対し、人材バンク
から講師・指導者を派遣する。

ア. 種目および派遣箇所数：

- i) 海洋性レクリエーション（ヨット・カヌー・水泳・武道等）及び特
別講師：7カ所
- ii) 転倒・寝たきり予防プログラム：3カ所
- iii) 幼児フロアリズム運動プログラム：2カ所
- iv) 幼児アクアリズム運動プログラム：2カ所
- v) 野外体験活動プログラム：3カ所

イ. 時 期：通年 ※全海洋センターへの募集告知は4月上旬を予定

ウ. 対 象：ブロック連絡協議会、道府県連絡協議会及び海洋センター・海
洋クラブ、指導者会が主催する参加者20名以上となる研修会

【4】ネットワーク構築と調査研究等事業

1. ネットワーク構築

(1) 情報ネットワークに係る活動

財団を核とした全国の海洋センターおよび海洋クラブならびに市町村等との連携を強化し、財団事業の効果的な推進を図る。また、海洋センター・海洋クラブとのオンライン化を推進し、さらなる情報共有を図る。

①業務効率化を図る情報処理システムの整備

ア. 時 期：平成24年4月～9月

イ. 内 容：情報処理ツールの制作

②B&Gコンパスのリニューアル調査

③インターネットを利用した大会の提供

ア. 時 期：通年

イ. 種 目：「チャレンジレスキュー」、「インターネット水泳記録会」
「ウォーターマラソン」

(2) 人的ネットワークに係る活動

日本財団助成申請中

海洋センター所在市町村の首長・教育長をはじめ、海洋センター・海洋クラブ関係者を対象に、財団事業の周知、関係者との意見交換等を目的とした各種会議を開催し、人的ネットワークの強化を図る。

①人的ネットワークの強化

ア. 「第5回B&G全国サミット」の開催

)時 期：平成25年1月下旬

)場 所：東京都港区 笹川記念会館 2F 国際会議場

)対 象：海洋センター所在市町村長

イ. 「第9回B&G全国教育長会議～ブロック幹事・道府県代表者～」の開催

)時 期：平成25年2月中旬

)場 所：東京都港区 日本財団ビル 2F 会議室

)対 象：海洋センター道府県連絡協議会から推薦された教育長と
ブロック幹事教育長と担当者

ウ. 「教育長・責任者 海洋センター・海洋クラブ活性化会議」の開催

)時 期：平成24年10月中旬～11月下旬（各2日間）

)場 所：全国10ブロックの主要都市

)対 象：教育長、海洋センター・海洋クラブ責任者および担当者

エ. 「海洋センターブロック連絡協議会総会」への出席

)時 期：平成24年4月～6月

)場 所：全国10ブロックの幹事市町村

(3) 海洋性レクリエーション団体との協力事業構築のための調査

海洋クラブ対象の会議を開催して意見交換を行なうとともに、海洋クラブ指導者の協力により指導プログラムを作成する。

①「海洋クラブ会議」の開催

ア. 時期：平成 25 年 3 月

イ. 対象：討議する課題に合わせて選考された海洋クラブ（10 ヵ所）

②海洋クラブ指導者の「派遣指導、指導プログラム作成」

ア. 時期：通年

イ. 対象：ブロック・道府県連絡協議会、海洋センター、海洋クラブ
（3 ヵ所）

(4) 職員相互の派遣研修

海洋センター所在地市町村より自治体職員を受け入れ、財団事業への参画や各種研修に参加させ、財団への理解促進を図るとともに、協力体制を強化する。また、ブロック担当の財団職員を海洋センター所在地市町村に派遣し、自治体および海洋センターの職務や問題点を学ぶとともに、人事交流を推進する。

自治体からの職員研修制度

ア. 時期：平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月（1 年間）

イ. 対象：海洋センター所在地の自治体職員 3 名

自治体への職員派遣 日本財団助成申請中（基盤整備）

ア. 時期：通年（3 ヵ月間）

イ. 場所：海洋センター所在地市町村

ウ. 対象：財団職員 3 名

2. 調査研究等の活動

B & G 財団事業および海洋センター・海洋クラブの活動成果を取りまとめ、その活動の重要性や効果を検証し、B & G プランの更なる推進を図る。併せて、B & G プランのより高度な公益性追求のため、B & G 財団の中長期事業計画策定の調査研究を行う。

(1) 先駆的な事業等に対する支援・協力

B & G プランの発展に向けた先駆的事业に対し支援・協力をを行う。

ア. 対象事業：海洋センター、海洋クラブ、道府県連絡協議会、ブロック連絡協議会が主催する先駆的事业（1 事業）

イ. 支援内容：上限 50 万円の事業経費補助、職員の派遣他

(2) 事業成果の分析・評価

前年度の財団事業実績、海洋センター運営状況、海洋クラブの活動状況の詳細などを分析・評価し、取りまとめ活動実績報告書として発行する。

ア. 完成時期：平成 24 年 6 月

イ. 配布先：海洋センター、海洋クラブ等

(3) B & G 財団中長期事業計画策定の調査研究

財団ソフト事業の更なる発展・充実と、より高度な公益性の追求のため、中長期事業計画策定の調査研究を行う。

3. 広報活動

財団及び地域海洋センター・海洋クラブで実施している事業やその成果等について、広く周知をはかるため、効果的な情報発信を行い、各種媒体を活用し、財団の社会的信用を高め、B & G プランの啓発に努める。

(1) マスメディアによる広報

ア. 目 標：新聞掲載 250 紙以上／テレビ 60 局以上

(2) ウォーターセーフティー ニッポンと連携した広報

(3) 自治体・海洋センター職員「B & G 特派員」の活用

ア. 内容：全国 10 ブロック 各 2 名以内の「B & G 特派員」を委嘱し、「特派員ブログ」に寄稿してもらう。

(4) インターネットを活用した情報の発信

ア. 目 標：月平均 70 万ページビュー

(5) 「B & G 広報大賞」の選出と表彰

ア. 対象期間：平成 24 年 1 月 1 日～12 月 31 日

イ. 部 門：広報大賞、テレビの部、新聞の部、ホームページの部、地域広報の部（ケーブルテレビ・地域広報誌）、特派員の部

ウ. 表 彰：広報大賞および各部門の優秀賞については、ブロック連絡協議会総会等において表彰する。

(6) 広報誌「アンドリーニュース」の発行

ア. 目標：年 2 回発行

(7) オリジナルグッズの製作・販売

①オリジナルグッズの販売

②JOC 協賛の T シャツ等の販売を行う。

【収益事業】

●土地賃貸事業

東京都江東区深川に当財団が所有する土地（10,684㎡）を賃貸する。

この土地の賃貸料収益は、必要経費及び法人税控除後の収益を当財団の公益事業の推進に活用する。